

郷士惡黨を集め、みづから賊魁をなしたりと。又北陸七國誌には、加州の一向坊主・土一揆等猶も餘黨を相催し蜂起する由、信長卿聞召し、天正八年閏三月柴田勝家加賀國へ討入り、光徳寺の大坊主が楯籠りたる木越の寺内に押寄せ攻破る。とあり。混見摘寫に、加州河北郡木越村光徳寺・若松村専徳寺・石川郡洲崎泉慶覺寺の一向坊主は、三ヶ寺の大坊主とて一揆大將なり。佐久間盛政加州退治の時、木越へ取懸りて合戦す。甚だ強くして落ちがたし。能州勢長連龍後卷なしけるに、城中寂然たり。盛政の武者奉行高嶋平助云ふ。跡々の様子と違ひたり。城主立退きたるか、又は自害せしかと。佐久間乗入りて見よと下知し、押入り見れば、光徳寺能登へ立退きたるよし濱通り立退き、粟崎にて討取りたりと。此坊主どもは富樫を亡したる光徳寺也。子孫今安江木町に有之。と見ゆ、三州奇談に云ふ。木越の道場といふは、天正の頃三山の大坊主と聞えし光徳寺の城跡也。其頃粟ヶ崎の湖水を引いて要害を構へ、光琳寺等の下坊主を隨へ、信長の勢と戦ふ。長氏の軍勢湖水の堤を切落したれば、此手一番に破れて長氏へ降参し、光徳寺は能登

の所口へ引取る。木越には今光徳寺掛所とて、蓮如上人の舊蹟古木の梅などありて、金澤の一游觀の地とは成りたり。光琳寺の跡は田の中と成れりとぞ。といひ、寶曆十四年舊蹟調書に云ふ。木越村百姓居屋敷之内に梅之木有之。此梅之木は昔此地に光徳寺と申御坊有之。其節本願寺蓮如上人つき給ふ杖を被指置、則其杖之由申傳候。とあり。

○觀行坊傳略

觀行坊は、六枚町光徳寺の開祖也。龜尾記に云ふ。天正の初め、河北潟の湖水を激入して要害となし、木越に堡を築き、河北郡の郷士小竹三郎・光琳寺・光徳寺・觀行坊・光専寺・般若院・大樂坊以下の惡漢共爰に集り、暴威を振うて近郷を押領す。之に依つて天正八年閏三月、柴田勝家信長公の命をうけ、賀賊を平定せんと討入る。佐久間玄蕃允は先手にて先づ木越を潰さんと小原邊へ出馬し、長九郎左衛門連龍も信長公の命に應じ、能登の福水より出馬し加勢す。盛政は大手より攻向ひ、連龍は大浦口より攻入り、一時に揉立攻込みける處、光琳寺は長の家士服部伴内と鎗を合せけるが、豪勇無双の惡僧といへども、眉間を突かれ遂に討

死す。小竹三郎は大原十郎左衛門と力戦して、是も討たれにけり。浦野孫右衛門・小原小左衛門・上野甚七郎以下長の家士ども、續きて城中へ乗入り、賊魁光徳寺を目がけ、我討取らんと突立つるを、觀行坊は大薙刀をひらめかし、加藤將監と戦ひけり。將監は鎗を以て向ひけるが、遂に觀行坊をば突落しけり。佐久間・長の猛勇に恐怖なしたりけん、光徳寺は降を乞うて、木越を立去り、能登の七尾へ退きけり。光琳寺の子息は家僕に助けられて、能登の劔地へ立退き、劔地に居住す。といへり。長氏の家士加藤氏系圖に、三代將監、天正八年閏三月十四日、連龍加州尾山之佐久間与共先登。木越城中より觀行坊と名乗突出る。將監馳合ひ、鎗を合す。とあり。今按するに、觀行坊は天正の頃なるを、光徳寺來歴に明德元年或は明德三年創立すとありて、時代甚だ齟齬す。

○南北六枚町

元祿九年の地子町肝煎裁許附に、六枚町の次に南六枚町・北六枚町と見ゆ、國事昌披問答に載せたる金澤町名にも記載す。六枚町の裏にて、今柳町に屬し、小名に呼べるのみ。

○六角堂

六枚町より古道の方へ出づる裏小路也。道路屈曲にて、六角堂を巡るが如し。故に世人六角堂と俗稱す。龜尾記に、六角筒の義井あるゆゑかといふは非也。今六枚町へ屬せり。

○大野馬左衛門上地町

元祿九年の地子町肝煎裁許附に、安江木町の次に六枚町大野馬左衛門上地町を記載せり。此の町名、國事昌披問答に載せたる金澤町名中には見えす。或は云ふ。六枚町の次に載せられたれば、今云ふ六角堂の地ならん歟といへり。

○大野馬左衛門傳

加陽諸士系譜に云ふ。大野馬左衛門某は、其の實宇喜多中納言秀家の家禮遠藤太郎右衛門が庶子なり。馬左衛門が實兄頼母助、則ち遠藤太郎右衛門が子なりしに、大野宗左衛門と云ふ者の猶子となり、大野頼母助と名乗り、墨田筑前守長政の家士と成りたり。然るに後故ありて流浪し、加州家へ來り、中納言利長卿に召抱えられ、八百石を賜はる處、無子、實弟馬左衛門を嗣子とす。馬左衛門中納言利常卿に